The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	三成賢次教授略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2021, 71(3-4), p. 453-463
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87384
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

三成 賢次教授
坂元 一哉教授

略歴・主要著作目録

三成　賢次教授　略歴

一九五五（昭和三〇）年　七月　兵庫県神戸市に生まれる
一九七四（昭和四九）年　三月　兵庫県立尼崎北高等学校卒業
一九七五（昭和五〇）年　四月　大阪大学法学部法学科入学
一九八〇（昭和五五）年　三月　大阪大学法学部法学科卒業
同　年　四月　大阪大学法学研究科博士前期課程公法学専攻進学
一九八二（昭和五七）年　三月　同修了
同　年　四月　大阪大学法学研究科博士後期課程公法学専攻進学
一九八五（昭和六〇）年　三月　同単位取得満期退学
同　年　四月　大阪大学法学部助手
一九八七（昭和六二）年　四月　同法学部助教授
一九九六（平成　八）年　四月　ドイツ連邦共和国・ボン大学に文部省在外研究員（長期甲種）として留学（一九九七（平成九）年九月まで）
一九九七（平成　九）年　七月　大阪大学法学部教授
一九九九（平成一一）年　一月　博士（法学）取得（大阪大学）
同　年　四月　大阪大学大学院法学研究科教授
二〇〇二（平成一四）年　四月　大阪大学評議員（二〇〇四（平成一六）年三月まで）
同　年一〇月　法制史学会理事（二〇一六（平成二八）年九月まで）
二〇〇四（平成一六）年　四月　大阪大学法学研究科長・法学部長（二〇〇八（平成二〇）年三月まで）
同　年　五月　文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員会委員（二〇〇八（平成二〇）年三月まで）
同　年　八月　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（二〇〇六（平成一八）年七月まで）
二〇〇七（平成一九）年　八月　大阪大学総長補佐（二〇〇九（平成二一）年八月まで）
二〇〇八（平成二〇）年　四月　大阪大学総合計画室室員（二〇一二（平成二四）三月まで）

同　年　五月　大阪大学大学院法学研究科附属法政実務連携センター教授（二〇一五（平成二七）年八月まで）
二〇一〇（平成二二）年　三月　大阪府労働委員会公益委員（二〇一六（平成二八）年二月まで）
同　年一一月　大阪弁護士会市民会議議長（二〇一二（平成二四）年三月まで）
同　年一二月　日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（二〇一二（平成二四）年一一月まで）
二〇一一（平成二三）年　四月　大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長（二〇一五（平成二七）年八月まで）
同　年一〇月　一般財団法人大阪大学後援会理事長・同出版会代表
同　年　同月　日本学術会議第二二・二三期連携会員
二〇一二（平成二四）年　四月　大阪大学理事補佐（二〇一五（平成二七）年八月まで）
同　年　同月　大阪大学全学教育推進機構大学院横断教育部門長（二〇一五（平成二七）年八月まで）
同　年　五月　大阪府民共済生活協同組合理事（非常勤）
二〇一三（平成二五）年一〇月　日本学術会議第二三・二四期連携会員
二〇一四（平成二六）年　四月　近畿弁護士連合会弁護士任官適格者選考委員会委員（二〇一七（平成二九）年三月まで）
二〇一五（平成二七）年　八月　大阪大学理事・副学長
二〇一七（平成二九）年一〇月　日本学術会議第二四・二五期連携会員
二〇一九（平成三一）年　四月　国立大学協会国立大学法人における教育・研究の成果に係る評価検討会委員（二〇二一（令和三）年六月まで）
二〇二〇（令和　二）年　二月　大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員（二〇二一（令和三）年三月まで）
同　年一〇月　日本学術会議第二五・二六期会員
二〇二一（令和　三）年　八月　大阪大学理事・副学長　現在に至る

主要著作目録

Ⅰ　著書

『地方自治大系1』（共著）嵯峨野書院　一九八九年
『法制史入門』（共著）ナカニシヤ出版　一九九六年
『法・地域・都市――近代ドイツ地方自治の歴史的展開』（単著）敬文堂　一九九七年
『世代法曹教育』（共著）商事法務研究会　二〇〇〇年
『地方分権改革』（共著）法律文化社　二〇〇〇年

Ⅱ　論説

「三月前期プロイセン・ライン州における地方自治制度の形成とその構造」『阪大法学』一二三号　一九八二年
「イギリスの契約法史の一潮流――アティアの近著に依拠して（一）」（共著）『阪大法学』一二五号　一九八二年
「イギリスの契約法史の一潮流――アティアの近著に依拠して（二）」（共著）『阪大法学』一二六号　一九八三年
「イギリスの契約法史の一潮流――アティアの近著に依拠して（三）」（共著）『阪大法学』一二七号　一九八三年
「イギリスの契約法史の一潮流――アティアの近著に依拠して（四）」（共著）『阪大法学』一二八号　一九八三年
「三月前期におけるライン州議会とブルジョアジー」『阪大法学』一三一号　一九八四年
「三月前期におけるケルン市制の近代化過程」『阪大法学』一四一・一四二号　一九八七年
「一八五六年のライン都市条令に関する一考察」『阪大法学』一四八号　一九八八年

「ドイツにおける近代地方自治制度の成立と発展」　『地方自治大系1』嵯峨野書院　一九八九年
「『新現代法論』への期待」　『法の科学』一七号　一九八九年
「近代プロイセンの名望家自治――その法構造と日本への継受」　『阪大法学』一五九号　一九九一年
「モッセ」　『日本近代法一二〇講』法律文化社　一九九二年
「国家とゲマインデ――近代プロイセンの『国家監督』」　『阪大法学』一六四・一六五号　一九九二年
「近代ドイツの都市行財政――九世紀後半ケルンの予算から」　『歴史における法の諸相』敬文堂　一九九四年
「ポストモダンか近代法の再生か?」　『法の科学』二二号　一九九四年
「陪審制と参審制――近代ドイツにおける司法への民衆参加（シンポジウム「司法への民衆参加の歴史」）」　『法制史研究』四五　一九九五年
「近代ドイツの司法参加――陪審制と参審制」　『司法への民衆参加――西洋における歴史的展開』敬文堂　一九九六年
「自治と官僚的支配――近代プロイセン地方自治における国家監督」　『阪大法学』二〇一・二〇二号　一九九九年
「近代人モーツァルト――『アマデウス』」　『法学教室』二二一号　一九九九年
「日本型ロー・スクールと基礎法学」　『大阪大学法学部創立50周年記念シンポジウム報告集「二一世紀の法学教育と法曹養成――日本型ロー・スクールに向けて」』　二〇〇〇年
「司法改革と大学教育」　『だれのための「司法改革」か』日本評論社　二〇〇一年
「明治国家と政治制度の設計をめぐって」　『日本政治――過去と現在の対話』大阪大学出版会　二〇〇五年

「ジェンダー法史学――今後の課題と展望」　『ジェンダーの比較法史学――近代法秩序の再検討』大阪大学出版会　二〇〇六年
「〈国家・市場・市民社会〉と法の歴史――『公共なるもの』からの一考察」　『学術の動向』財団法人 日本学術協力財団　二〇〇八年
「わが国における法学部教育の状況」　『阪大法学』二九四号　二〇一五年
「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」（共著）　『日本学術会議・オープンサイエンスの取組に関する検討委員会』　二〇一六年
「学術の総合的発展と社会のイノベーションに資する研究資金制度のあり方に関する提言」（共著）　『日本学術会議・学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会』　二〇一七年
「第六期科学技術基本計画に向けての提言」（共著）　『日本学術会議・科学者委員会学術体制分科会』　二〇一九年

Ⅲ　翻訳

ハンス・プラーニッツ「中世ドイツにおけるケルン都市法とその伝播」（共訳）　『阪大法学』一三一号　一九八四年
「最古のゾースト都市法」（共訳）　『阪大法学』一三六号　一九八五年
アルトゥール・エンゲルマン「民事訴訟法概史（二六）」（共訳）　『阪大法学』一三九号　一九八六年
アルトゥール・エンゲルマン「民事訴訟法概史（二七）」（共訳）　『阪大法学』一四〇号　一九八六年
アルトゥール・エンゲルマン「民事訴訟法概史（二八）」（共訳）　『阪大法学』一四三号　一九八七年
アルトゥール・エンゲルマン「民事訴訟法概史（二九）」（共訳）　『阪大法学』一四四号　一九八七年
アルトゥール・エンゲルマン「民事訴訟法概史（三〇・完）」（共訳）　『阪大法学』一四七号　一九八八年

G・L・v・マウラー「ドイツ中世都市の自治行政（一）」（共訳）　『阪大法学』一四七号　一九八八年
「近代ドイツ憲法史史料（一）――ドイツ同盟規約」　『阪大法学』一五五号　一九九〇年
D・シュガーマン『イングランドの法と社会』（共訳）風行社　一九九三年
『ガンス法哲学講義1832／33　自然法と普遍法史』（共訳）法律文化社　二〇〇九年

Ⅳ　書評

「H・ミッタイス著　林毅訳『法史学の存在価値』」　『西洋史学』一一九　一九八一年
「成瀬治「『三月前期』における代議制の性格』（『ヨーロッパ身分制社会の歴史と構造』創文社　一九八七年所収）」　『法制史研究』三八　一九八九年
「北住炯一「プロイセン都市政治におけるプロイスとリンデマン」」　『法制史研究』三九　一九九〇年
「北住炯一『近代ドイツ官僚国家と自治――社会国家への道』（成文堂　一九九〇年）」　日本地方自治学会編『世界都市と地方自治』敬文堂　一九九一年
「共著　利谷信義他編『法における近代と現代』（日本評論社　一九九三年）」　『法律時報』六六巻八号　一九九四年
「千葉徳夫「絶対主義時代のドイツにおける小国の理念と現実」」　『法制史研究』四五　一九九五年
「飯野靖夫「君主権の回答にみるハレ法科大学判決団――ルーテヴィッヒ『回答集』から」」　『法制史研究』四六　一九九六年
「岡本明編著『支配の文化史――近代ヨーロッパの解読』（ミネルヴァ書房　一九九七年）」　『法制史研究』四八　一九九八年

「村上淳一編『法律家の歴史的素養』（東京大学出版会　二〇〇三年）」　『法制史研究』五四　二〇〇四年

「藤川直樹「ドイツ立憲君主政における王統と国家――ヘルマン・レームの公法学」」　『法制史研究』六四　二〇一四年

「柴田隆行『シュタインの自治理論――後期ローレンツ・フォン・シュタインの社会と国家』（御茶ノ水書房　二〇一四年）」　『法制史研究』六五　二〇一五年

Ⅴ　学会報告等

報告「三月前期におけるライン州議会とブルジョアジー」　法制史学会第三二回研究大会　於：神戸学院大学　一九八四年

報告「三月前期におけるケルン市制の近代化過程」　法制史学会近畿部会例会　於：京大会館　一九八六年

報告「近代ドイツ地方自治と『住民自治』」　法制史学会近畿部会例会　於：京大会館　一九九一年

報告「国家とゲマインデ――近代プロイセンの国家監督」　法制史学会第四〇回研究大会　於：愛媛大学　一九九二年

報告（シンポジウム司法への民衆参加の歴史）「陪審制と参審制――近代ドイツにおける司法への民衆参加」　法制史学会第四二回研究大会　於：島根大学　一九九四年

報告「自治と官僚的支配――近代プロイセン地方自治における国家監督」　法制史学会第四六回研究大会　於：神戸大学　一九九八年

報告「〈国家・市場・市民社会〉と法の歴史――『公共なる　日本学術会議基礎法学総合シンポジ　二〇〇八年

もの』からの一考察」

報告（書評）「居石正和著『府県制成立過程の研究』（法律文化社　二〇一〇年）」　二〇一〇年

報告「日本における法学部教育の状況」　二〇一三年

報告（シンポジウム　マグナ・カルタの八〇〇年）「ドイツ法史から」　法学教育科研・国際シンポジウム「東アジアにおける法学部教育の可能性――What is “Legal” Education?」　二〇一三年

報告「学術政策に係るわが国の状況とEUの動向紹介」　法制史学会第六七回総会　於：関西学院大学　二〇一五年

報告「日本の学術基盤の現状」　日本学術会議・法学委員会・学術と法分科会　二〇一五年

報告「わが国における法学部教育――近年の大学教育改革をめぐって」　トランスプロフェッショナル・リテラシー科研主催・大型教育研究プロジェクト支援室共催シンポジウム（変動期の学術基盤を考える――オランダ調査を手がかりに）　二〇一五年

報告「市民性涵養のための基礎法学教育の可能性」　日本学術会議・法学委員会・「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会　二〇一七年

ウム〈法における国家、市場そして市民社会〉　日本近代法制史研究会　二〇一〇年

日本学術会議公開シンポジウム「市民性涵養のための法学教育――高校から大学へ」

Ⅳ　その他

「一九八三年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』五五巻一二号　一九八三年
「一九八四年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』五六巻一三号　一九八四年
「一九八五年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』五七巻一三号　一九八五年
「一九八六年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』五八巻一三号　一九八六年
「一九八七年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』五九巻一三号　一九八七年
「一九八八年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』六〇巻一三号　一九八八年
「一九八九年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』六一巻一四号　一九八九年
「一九九〇年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』六二巻一三号　一九九〇年
「座談会・新現代法論を語る」　『法の科学』一九号　一九九一年
「これからの大学教育　大阪大学全学共通教育機構」　『創造と実践』　二〇〇一年
『ベイシック法学用語辞典』（分担執筆）有斐閣　二〇〇一年
「近代法秩序の形成と法学・法律家――日本的視座からみた法秩序の比較法史的研究　科研費研究成果報告書」（共著）　二〇〇二年
「二〇〇三年学界回顧・西洋法制史」　『法律時報』七五巻一三号　二〇〇三年
「ジェンダーの比較法史学――近代法秩序の再検討　科研費研究成果報告書」（共著）　二〇〇四年
「二〇〇四年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』七六巻一三号　二〇〇四年
「二〇〇五年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』七七巻一三号　二〇〇五年
「法学部生へのメッセージ一九・良きガバナンスを実現できる力を」　『法学セミナー』六一〇号　二〇〇五年
「法曹の新職域グランドデザイン構築　科研費研究成果報告書」（共著）　二〇〇九年

「林毅先生追悼の辞」　『法制史研究』五八　二〇〇九年
「二〇〇九年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』八一巻一三号　二〇〇九年
「二〇一〇年学界回顧・西洋法制史」（共著）　『法律時報』八二巻一三号　二〇一〇年
「聞き書き・わが国における法史学の歩み（8）三浦澄雄先生にお聞きする」（共著）　『同志社法学』六二巻五号　二〇一一年
『知のジムナスティックス――学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か』（共著）大阪大学出版会　二〇一二年
「トランスプロフェッショナル・リテラシーを備えた専門家養成基盤に関する模索的研究　科研費研究成果報告書」（共著）　二〇一六年